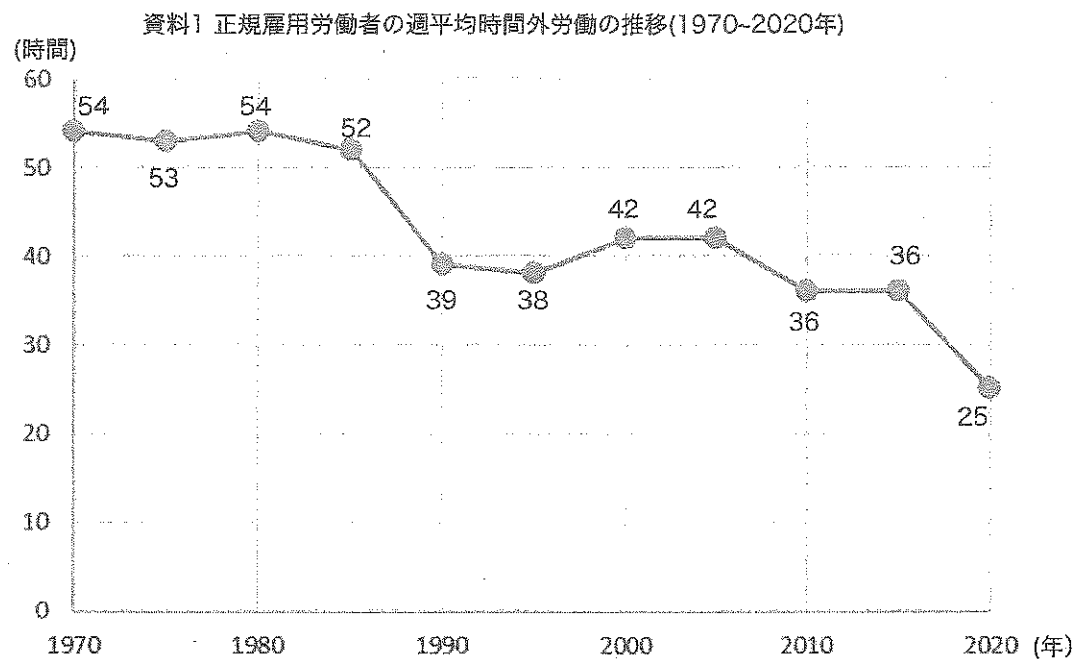


1. 以下の資料1・2はある国の労働時間に関するものである。資料を読んで次の問いに答えなさい。



資料2 労働法の主な改正

制定	主な改正内容
1985年	週の休日が1日から2日になる
2005年	時間外労働については通常の1.5倍の賃金を支払うことを義務付ける
2015年	時間外労働の上限を1ヶ月100時間とし、それを超えて時間外労働をさせた企業に対する罰則を設ける

問 資料1から読み取れる週平均時間外労働の推移について、資料2も参考にして100語~150語の英語で説明しなさい。その際、下記の<語句>を使用しても構わない。

<語句> 時間外労働時間: overtime, overtime hours 労働法: labor law(s)
時間外労働する: work overtime 労働時間: working hours

2. 以下の文章を読んで次の問いに答えなさい。

いまの日本で働く人々の生活にとって重要な問題がある。それは時間の問題である。

かつてマルクスは、労働者が資本家の利益のために長時間労働を強いられる現実を指摘し、これが労働者の人間的な成長や自由に使える時間を犠牲にしていると主張した。現在では、日本人の平均寿命は男女ともに80歳を超えるまでになっているが、その時間が人の幸福と人間らしい成長のために使われているかどうかが重要であるとマルクスは言っているのである。

だが私はそれが労働者の選択であるなら、人生の大部分を仕事に費やすのも悪くないと考えている。仕事というものは少しの努力で成功したり、成果を感じられたりするものではない。顧客からの意見を取り入れ、試行錯誤や実験を繰り返し、改善を積み重ねた中でたまにうまくいくことがあるぐらいのものである。このように、なかなかうまくいかず、短期間で簡単に成果の出ないものであるからこそ、仕事を通して人間的にも成長できるのだと私は思う。

また、労働者が資本家の利益のために働かされている、搾取されているというのは労働の一側面しか捉えていない。皆さんはどういう時に嬉しくなったり、幸せを感じたりするだろうか。私の家の近くには長く営業している昔ながらの定食屋が何軒かある。店構えは立派ではないが、手頃な値段でたくさん食べられるのが嬉しい。夜にアイスを食べたいと思った時に近くのコンビニやドラッグストアで買うこともできるのも私にとっては小さな幸せだが、それは夜に営業しているお店やアイスクリームを作るメーカーがあり、商品を店舗に配送してくれる人がいるから成り立っている。また家ではゲームをしたり映画を楽しんだりすることもできるが、それも製品を作っている人だけでなく、電気の安定供給があるから楽しめるのだ。このように、労働というのは本来はその従事する仕事を通して自分の周りの人や、自分の関わった商品やサービスを手にする人たちを幸せにするためのものだ。

以上のような理由から、生きている間の多くの時間を労働に使うのはそれはそれで素晴らしい人生だと私は思う。

問 あなたは筆者の意見に賛成であるか、反対であるか。自身の立場を明確にして理由を2つ以上添えて150語~200語の英語で論じなさい。

問題は以上で終わりです。